

# 考察 【波瀾の時代の幸福論】

## 【参考図書】

岩井克人「21世紀の資本主義論」

堂目卓生「アダム・スミス～道徳感情論と国富論」

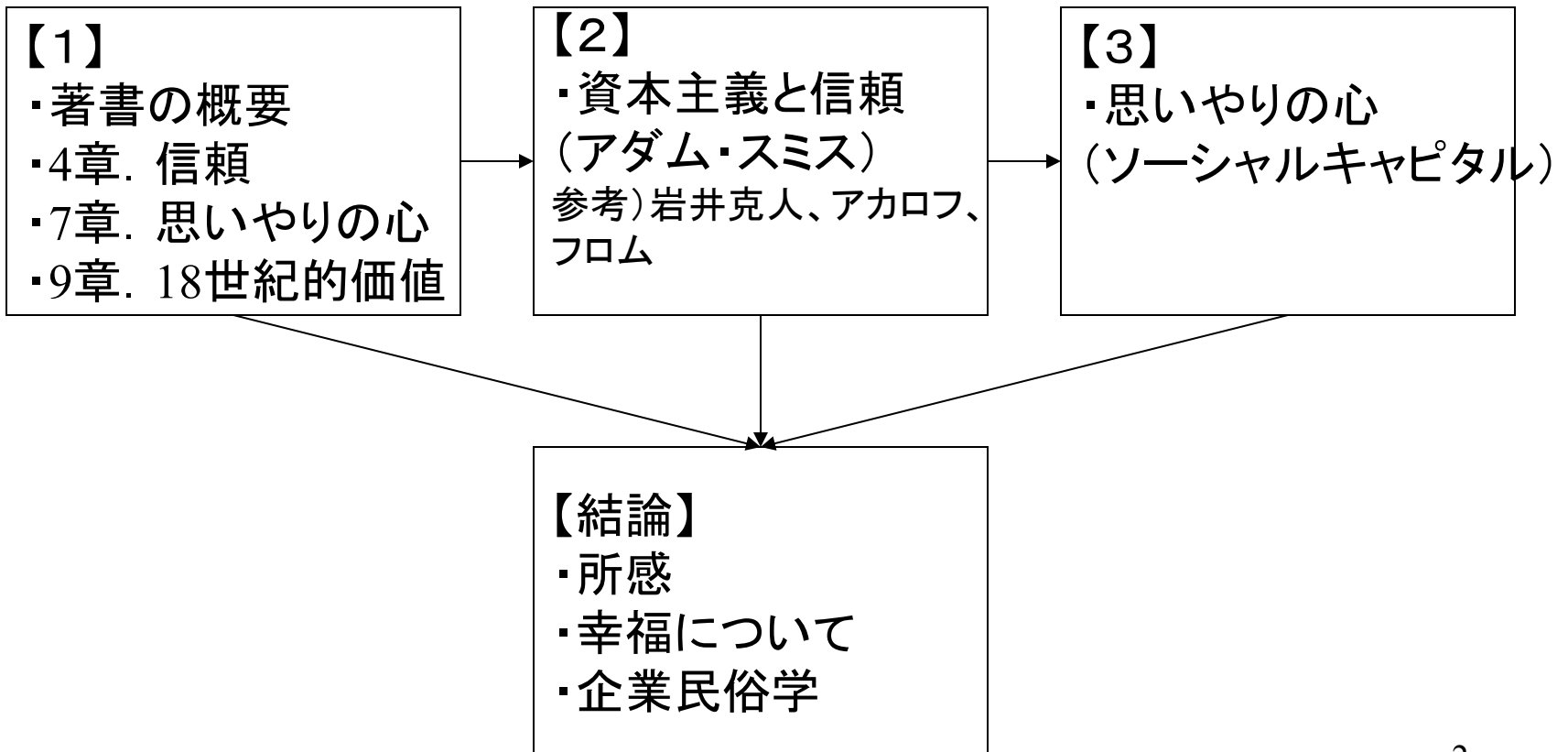
ジョージ・A・アカロフ&ロバート・J・シラー「アニマルスピリット」

エイリッヒ・フロム「愛すること」

ロバート・B・パットナム「哲学する民主主義」

# 本日の報告

- 「幸福論＝幸福とは何だ？」
- 【終章】著者にとって、幸福とは「足るを知る＝人格と価値観」ということ。
- 人生の幸福は、自主性＋関係維持＋能力発揮。加えて社会貢献。



# 【1】波瀾の時代の幸福論の概要

	OUT	IN
I マネー	コスト	価値
	投機	投資
	複雑さ	シンプルさ
II ビジネス	計算	<b>信頼</b>
	ビジネス	職業人の行動
	販売精神	受託責任
	マネジャー	<b>リーダー</b>
III 人生	モノへの執着	責任ある関与
	21世紀的価値	<b>18世紀的価値</b>
	成功	人格

信頼、リーダー(思いやりの心)、18世紀的価値にポイントを感じる。

## 第4章. 計算より信頼を

- アルベルト・アインシュタイン

『計算より信頼を価値あるものすべてが数えられるとは限らない』

数えられるものすべてに価値があるとは限らない』

- 現代では社会でも、経済学や金融業界でも、あまりに数字を信頼しすぎている。数字ばかりを崇めて計算できないものを過小評価することで、数字の上だけで成り立つ経済をつくりあげてしまった。
- 計算をするペーパーカンパニーがモノをつくるロックカンパニーを買収するようになり、悲惨な結果が生じた。
- 信頼が大切であるという信念は、キリスト教の黄金律に遡る。隣人を愛するように、人の価値を測ることがないように、人にしてもらいたいと思うことを人にするように、人にされたのと同じやり方をするようにと聖書は私たちに訴えている。
- 現在は、あまりに計算に頼りすぎ、信頼が足りていない。計算と信頼の間に健全なバランスをとらなくてはならない。

日本でも同じ傾向、エビデンスなど、数値化重視は信頼感のない社会の表れ。

## 第7章. マネジャーよりリーダーを

立派な組織をつくるための10のルール→重要なことは**思いや**

**り**の心

No.	ルール	ポイント
1	<b>思いやり</b> を組織の糧に	組織に対する思いやり
2	従業員という言葉をなくす	<b>乗組員(チームワーク、協調)</b>
3	<b>高い規範と価値観</b> を定める(それらを守る)	高い倫理性こそがよいビジネスを生む
4	い <b>うべきこと</b> をいう(価値観を繰り返す)	人の心を動かせる言葉、説得力
5	や <b>るべきこと</b> をやる(言葉より行動が響く)	歩き回る
6	管理しすぎない	<b>血気、世の中を動かすのは人間</b>
7	個人の功績を認める	表彰制度
8	覚えておくべきこと(忠誠はお互いに向けられる)	部下に対しての忠誠心
9	長期にわたって指揮管理する	優秀な労働力は長期的な資産
10	何があろうと突き進む	粘り強さと断固たる決意

思いやり、協調、規範、人間重視というのは組織論として目新しくはないが、ルール化すれば素晴らしい。

## 第9章. 21世紀的価値より18世紀的価値を

・18世紀は理性の時代(ニール・ポストマン)

・自由主義的博愛主義を熱く擁護し、人間性と機械のバランスを回復すべきだと主張。かつては、指導者の精神的支柱として、西洋文明の価値観と品性が存在し、重要なものは必ず道徳的に裏付けられるという考え方が浸透していた。

・私たちは『真理』というものから距離をおき、『真実らしさ』に向かっている。真実らしさとは、概念や数字のかたちをした、私たちが自分の利益のために信じたいと願い、ほかのものに信じさせようとするものごと。

・ 18世紀的人物の模範

ベンジャミン・フランクリン

「活力と粘り強さがすべてを制する」

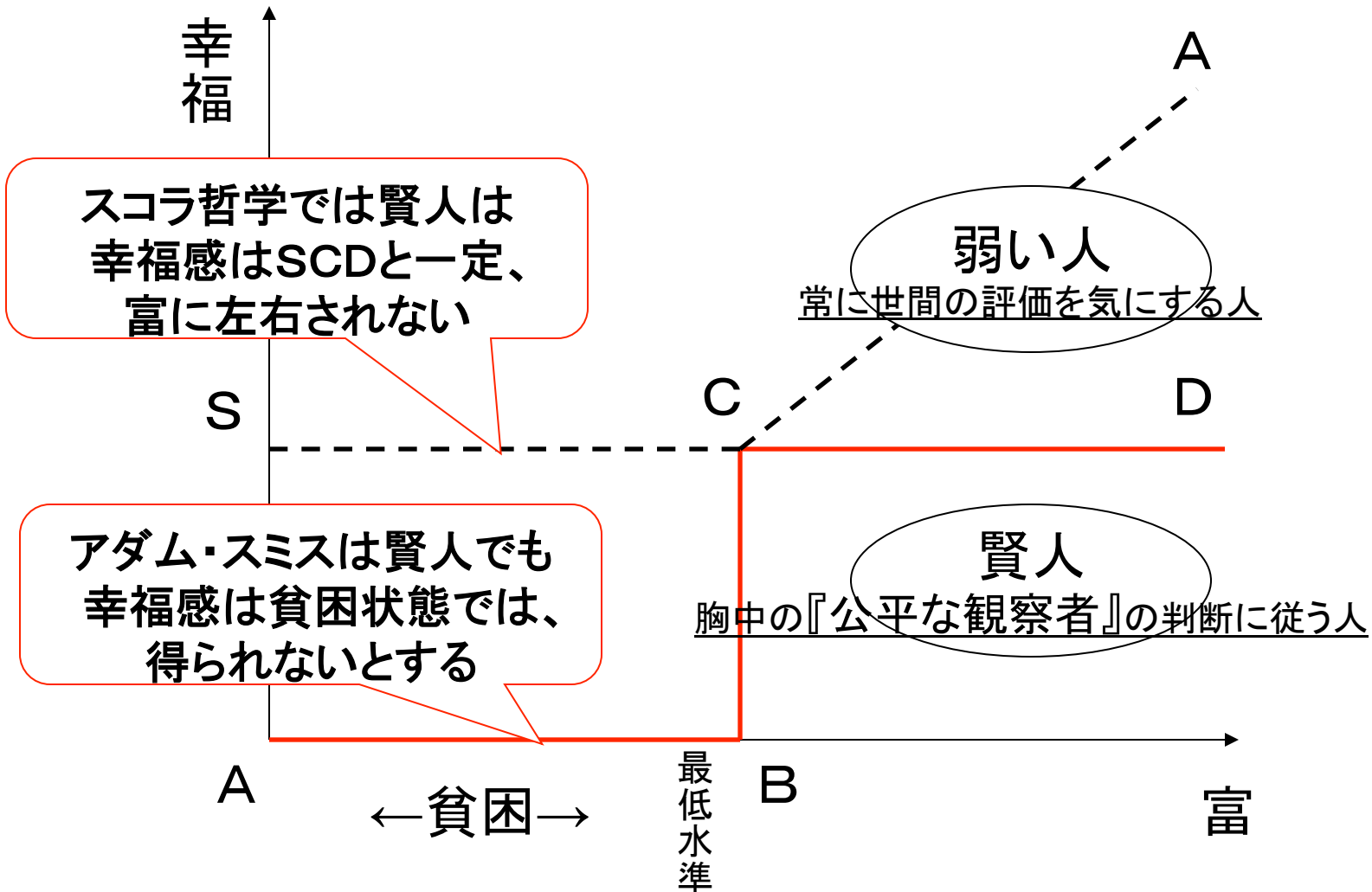
・ 本来の起業家とは、ただの「事業を行う人」であり、組織をつくって指揮する人間を指す。フランクリンにとって金を稼ぐということは、常にほかの目的のための手段であり、金儲け自体が目的ではない。個人的な利益よりも公共の福利を目的としていた。

アダム・スミス(「道徳感情論」)

・ スミスのいう『公平な観察者』とは、人間の内面にある存在で、自分が身を置く世界、いわば自分の魂によって形成され、崇高な召命を与えてくれる。スミスの言葉によれば、「理性、原理、良心であり、胸中の住人であり、内面的な存在であり、われわれの行いに対する偉大な判事であり仲裁人」だ。

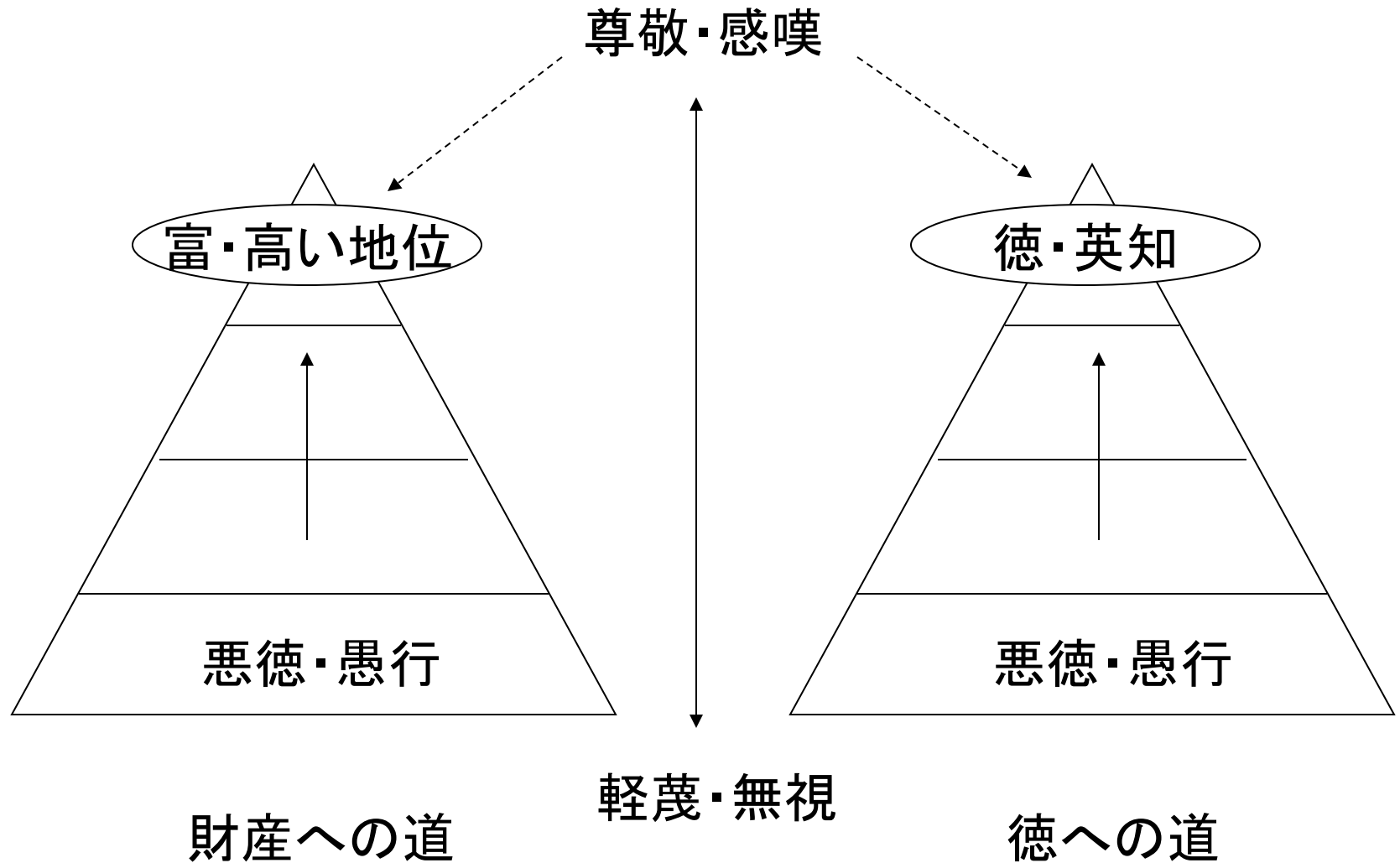
人間性と機械のバランス。良心や倫理、公共の福利は何故失われたのが？

# (補足1) 富と幸福の関係 (アダム・スミス「道徳感情論」)



説明) スミスは幸福を平静と享樂にあると定義する。心の平静のためには健康で負債がなく、良心にやましいところがないことが必要。しかし、それ以上の財産の追加は幸福を大きく増進するものではない。

# (補足2)徳の道と財産の道



説明) 社会の秩序と繁栄をもたらすのは、徳への追求と矛盾しない、財産の道の追求、すなわち正義の感覚によって制御された野心と競争だけである。



## 【2】資本主義と信頼① 見えざる手の理論

(岩井克人「21世紀の資本主義論」から抜粋)

『通常、個人は、公共の利益を促進しようと意図しているわけでもないし、自分が社会の利益をどれだけ増進しているのかわっていたわけでもない。意図しているのは、自分自身の安全と利得だけである。だが、こうすることによって、彼は、見えざる手に導かれて、自分では意図してもしなかった目的を促進することになる。自分自身の利益を追求することによって、彼は実際にそうしようと思ったときよりもかえって有効に、社会の利益を促進することになる場合がしばしばある』 (アダム・スミス「国富論」1776年)

・見えざる手とは、市場経済における価格メカニズムのこと。市場経済においては、すべての人が自分の利益を追求するだけで、見えざる手の働きによって、自動的に生産と消費との均衡が実現していくとする。価格の調整を通して、モノの過不足は自動的に解消され、モノの生産に必要な資本も労働も効率的に配分させられることになる。

・資本主義とは、それまで市場化されていなかった地域を市場化し、それまで分断化されていた市場と市場を統合する。グローバル市場経済には、格差や差異やニッチや攪乱は、すべて内部におけるものでしかなく、外部は存在しない。人類が初めて経験する純粋な市場経済である。

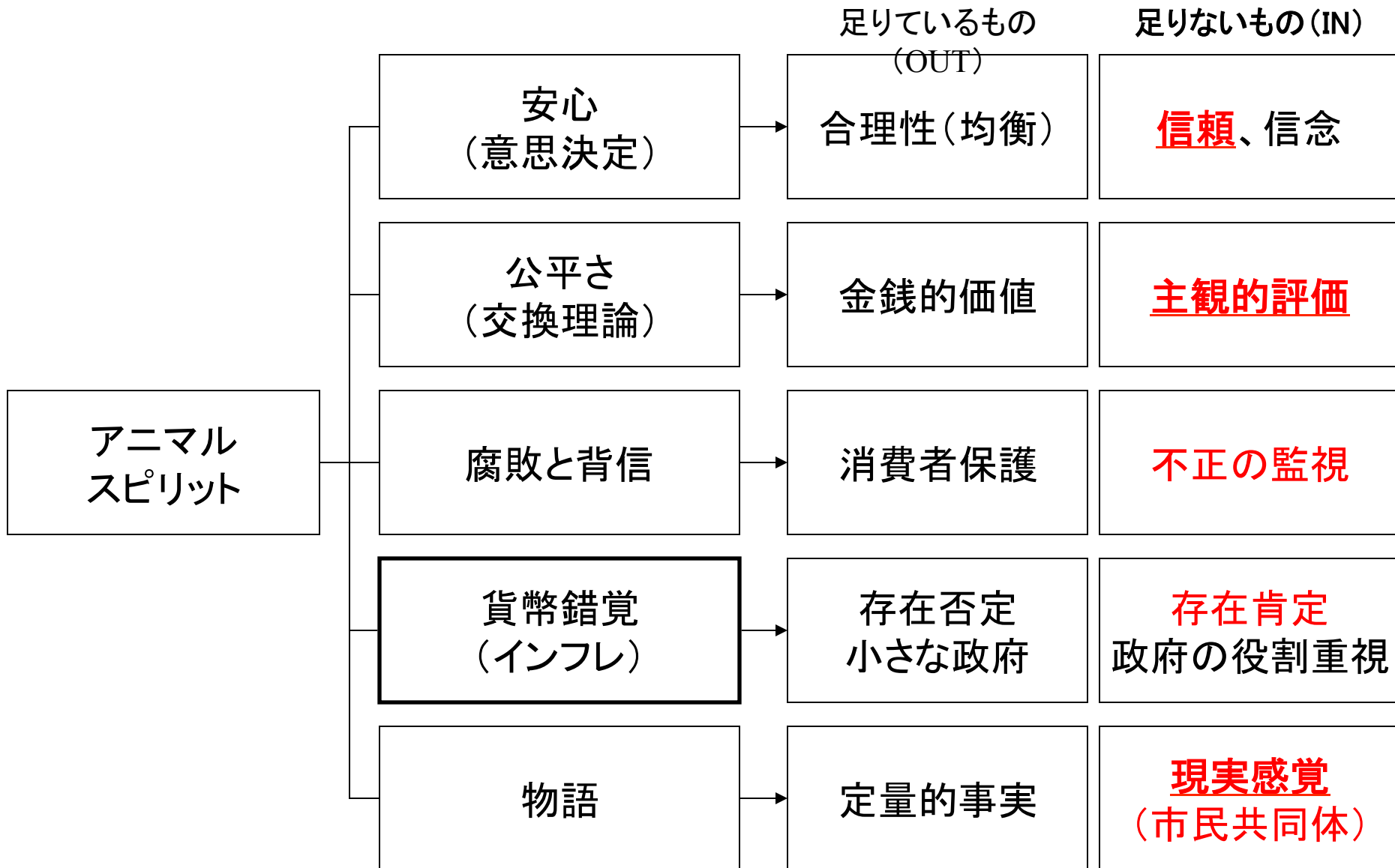
・市場経済とは、効率化すればするほど不安定性が増していくという根源的な二律背反をかかえた存在である。その市場経済が、見えざる手を働かすことができたのは、市場経済を不純にする様々な外部の存在が、その本来的な不安定性の発現を一定程度におさえてきたからである。その外部が消えてしまった今、それを抑えるものは何もない。

・21世紀とは、アダム・スミスのいう見えざる手がその力をますます失っていく時代である。

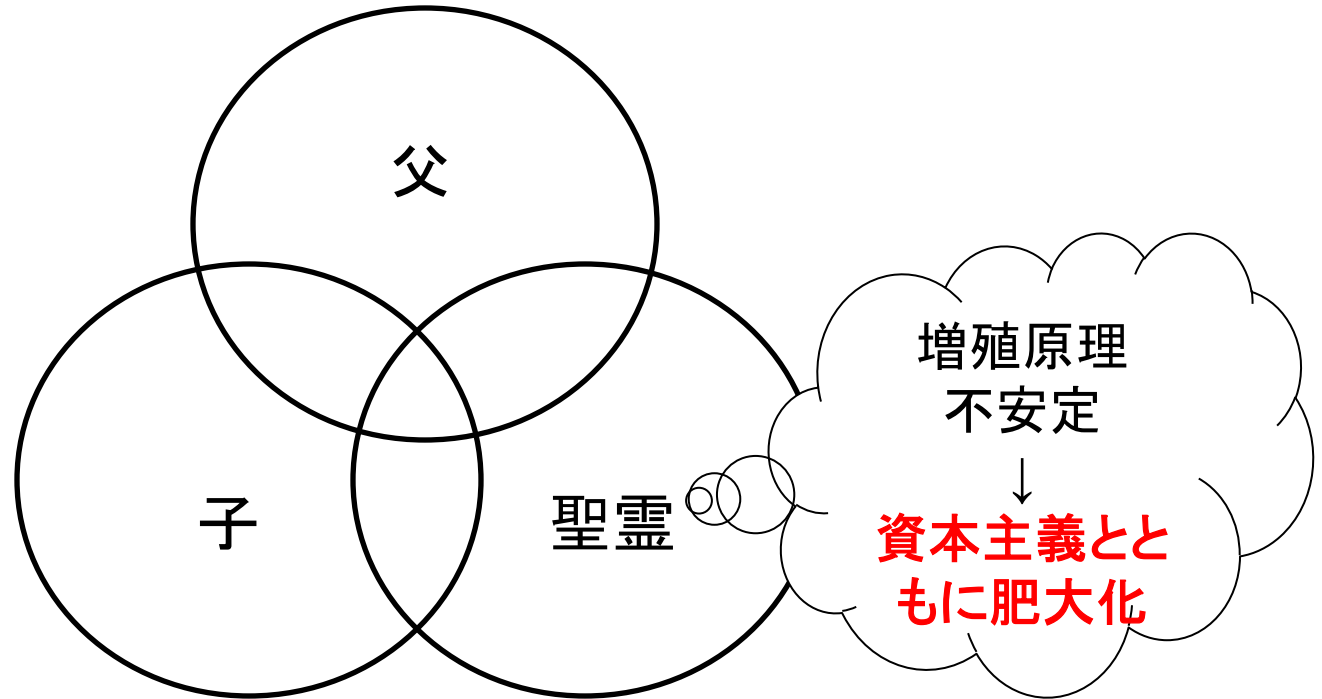
『見えざる手』というコンセプトが200年以上普遍的価値として語られる驚き。

# 【2】資本主義と信頼② ケインズのアニマルスピリット

(アカロフ&シラー「アニマルスピリット」)



## 【2】資本主義と信頼③ キリスト教 三位一体の構造



父	物事に一貫性や永続性を与える原理	神とは安定していて世界を根底で支える未来を確実なものとして、秩序をつくりだそうとする権力の機能
子	人間の世界に神の意志を媒介する原理	イエス・キリストは <b>神の子</b> 父のコピー、神と人間との間をつなぐ媒体としての機能
聖霊	人間が直感的に感じ取る、目に見えない実体 <b>増殖する原理(中世スコラ哲学で容認)</b>	霊とは増殖し、躍動し、拡大し、伝染していくもの、 <b>信用ならない、制御不可能な性質をもつ</b>

キリスト教と資本主義の増殖原理という共通の価値観が放置されると暴走？  
学校教育における清新で倫理的なイメージとは異なる側面である。

## 【2】資本主義と信頼 ④愛の理論

(エイリッヒ・フロム「愛すること」)

	資本主義以前	資本主義以降
平等	<u>個性の発達としての平等</u>	<u>標準化</u> 社会が人間の標準化を要求
公明正大	<u>「君自身のごとくに、君の隣人を愛せよ」(共通)</u>	
	<u>とりもなおさず責任を感じ、そして隣人と一体であること</u>	<u>公明の倫理は責任と一体性を感じないでその人とは距離と分離を感じ得</u>
社会構造 (あるべき姿)	<u>愛の原理</u>  社会は、人間の社会的で人を愛する性質が、人間の社会的な実存から分離されないで、一体になるような風に組織されるべき。	資本主義の原理＝すべての決定要因は市場における交換(金銭的価値)。  社会のすべての活動は経済的な目標に従属させられ、手段が目的化。本来、経済的な機械に人間が仕えるよりは、人間に機械が仕えるべき。

### 【3】思いやりの心① ソーシャルキャピタル (Social Capital)

ソーシャルキャピタルとは、社会関係資本のことで、社会全体の人間関係の

豊かさと定義される。つまり、市民や地域全体のつながりの重要性を意味し、

社会問題に関わっていく自発的団体の多様さで測ることができる。



人間の間には積極的なつながりによって構成される社交ネットワークやコミュニティを結びつけ、協力行動を可能にするような信頼、相互理解、共通の価値観や行動である。

特徴とは

1. 互いのつながりを育む時間と空間を提供
2. 信頼をはっきり示す
3. 目標と信念を効果的に伝達
4. 単なる所属に留まらない、誠実な参加を引き出すような公平な機会と報酬を提供

### 【3】思いやりの心② 市民共同体

(ロバート・B・パットナム「哲学する民主主義」)



北部	三角工業地帯 ＝市民的伝統 効率的	1975～1989年 イタリア南北間格差調査
南部	後進的社会 ＝市民的伝統 非効率	



<p>第3のイタリア (北・中部)</p> <p>自由をあたえつつ、甘やかさない 舞台づくり (政府の役割)</p>	<p>小規模ながら技術的には先進的で、また高度に生産的な経済。 ボローニャ(流通)、ブレシア(ミニ鉄鋼)、プラート(高級ファッション)。</p> <p><b>地域の特徴のキーワードは「競争と協力」。</b></p> <p>重要な特徴は、 <b>「相互信頼、社会的協力、より発達した市民的義務感」。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェやバーなど通りの頻繁な情報交換。</li> <li>・<b>互酬性の規範と市民的積極参加のネットワークといった制度</b></li> <li>・低度の垂直的統合と高度の水平的統合。</li> </ul>
--	---

## 【3】思いやりの心② 市民共同体

(ロバート・B・パットナム「哲学する民主主義」)

<p>①市民的積極参加</p>	<p>(<u>シチズンシップ</u>) 公的諸問題への積極的な参加。 公共問題への関心と公衆への帰依＝『市民的徳』。 自己利益と愛他主義という二分法ではなく、 <b><u>公的利益を私的利益より追求するという考え方。</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・啓蒙された自己利益</li><li>・他者の利害に敏感な自己利益</li><li>・幅広い公衆のニーズという文脈で定義される自己利益</li></ul>
<p>②政治的平等</p>	<p>互酬性</p>
<p>③連帯、信頼、寛容</p>	<p>市民共同体は、<u>信頼</u>という織物を通じて、経済学者が言う 機会主義を克服しやすくする。</p>
<p>④自発的結社</p>	<p>(<u>協力の社会構造</u>) トクヴィル『人間の相互理解によってのみ、感情と思想が一新 され、人の心が豊かになり、人間の精神もまた発展する』。</p>

上記結論) 経済は市民的伝統を予測しないが、市民的伝統は経済を予測する

## 【結論】私流「足るを知る」

- ・ 私にとって幸福とは、『求めすぎないこと』。
- ・ 利他主義、自分の相応の役割を深く理解し、新たな価値を模索する。

	個人・幸福論	常盤塾/企業民俗学
信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(普遍的な価値をつくるということ)</li> <li>・高い規範、倫理観を身につける</li> <li>・思いを大切に</li> <li>・信頼されて『場』を見つけたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルキャピタルの市民共同体という概念が企業経営に活かさないか</li> <li>『相互信頼、社会的協力、より発達した市民的義務感』</li> <li>の舞台づくり、風土づくり。</li> <li>また、公的利益重視という</li> <li>思想転換は今後の課題。</li> </ul>
思いやりの心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長だけが人生ではない</li> <li>・利他主義、奉仕の精神を学ぶ</li> <li>=愛すること</li> </ul>	
18世紀的価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的活動への積極参加</li> <li>・自己の適切な役割を果す(まず、ものさしをつくる)</li> </ul>	



## 【結論 追記】

- ・ 今回、足るを知るはずが、無知を自覚することになってしまい、やはり、自分の体験不足(足らず)を感じざるを得なかった。
- ・ 結局、人間は常に欲望と戦い続ける運命ではないか。
- ・ 資本主義によるあるいはキリスト教による創造性は、行きすぎは修正が必要だが、人間の幸福に関わる大きな意義もある。
- ・ 幸福感は千差万別。したがって、「足るを知る」能力＝幸福を感じる能力(見田宗介『幸福感受性』)は、個々の居場所を規定する。幸せの満ちた社会をつくる源となるような気がする。
- ・ 市民共同体は切磋琢磨しながら、互いに信頼関係をつくり協力していくという組織であり、そこでの発展の原動力も利他や公共意識を持ちながら、皆がもっと良くなるにはどうすべきかということを真面目に考えるしくみとして新しい経営のモデルである。
- ・ 個人個人が良心を持ち、人の創造性を育む前向きな議論ができるような舞台づくりが必要だ。教育の舞台で新島襄や福沢諭吉ら先人の発信してきたことにも学ぶ点が多い。

# 【意見1】

敬称略

発言者	回答者	意見内容
今田		増殖という悪行は、マックス・ウェーバーが全て悪い。ピュアなプロテスタンティズムは、過激な解釈するきっかけをつくった。
常盤		キリスト教の黄金律というものはどんなことなのか？
→	今田	隣人を愛せよが、中心教義。
丸山		富と幸福のグラフはこれが正しいのか。2次元でとらえるというのも限界ある。
→	松崎	賢人は最低水準以上あれば、良心の解釈で幸福を感じ、それ以上の富は欲しないという意味です。
片平		貧困でも幸福であるという人はいる。英国の大学教授などは意識してか、みすぼらしい格好をしていることがある。
常盤		信頼という言葉が沢山出てくる。人を動かすには人をほめること。人は信頼されるとうれしい。任された仕事には責任感を持って取り組む。お金だけではないところに目を向けさせることが重要なこと。お金は数えられるが、稼げば稼ぐほど更に貪欲になる。
松永		つぶやき(ツイッター)は信じることで広まるということからすると、非常に興味深い現象である。
上原		相手を信頼しなくなると、皆が発信するような世界では見たい情報ばかり見てしまったりと、本当に良いしくみになるのか疑問がある。情報が多くなりすぎると信頼すべきもの、本当に良いものが消されてしまう可能性もある。
→	松永	人が集まるということは現場に力があると解釈できる。慣れる事で信頼を醸成していくしかない。
片平		WEB2.0では、悪貨は良貨を駆逐するとして、結果的にしっかりしたものしか残らない。
→	松崎	アダム・スミスの見えざる手の考え方も基本は同じ。淘汰された後、最終的に良いものは残る。
常盤		三位一体の図で聖霊とは、どういう意味か？それが何故キリスト教とむすびつくのか？
→	松崎	三位一体はキリスト教の基本原則とどこにも書いてある。中沢新一の著書から抜粋。布教の組織活動のことでは。
→	今田	三位一体はミケーネ公会議で決まった。聖霊は諸説あるが、どれもわかりにくい。ここでは神の啓示という意味だろう。

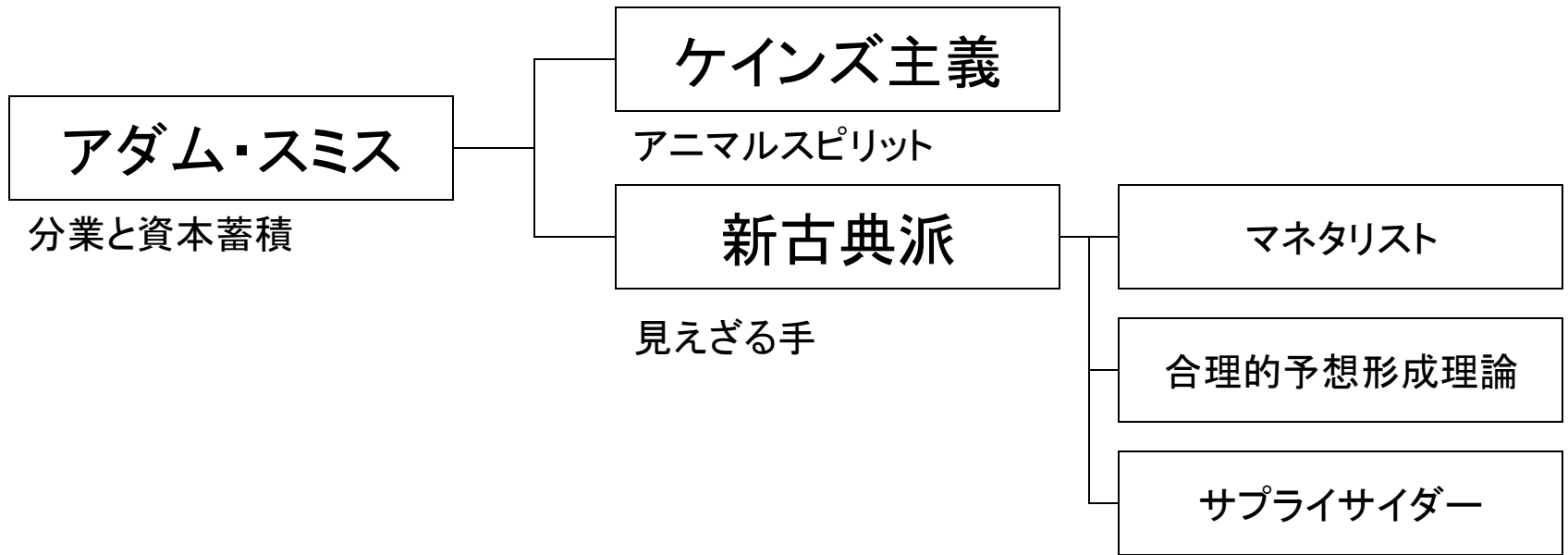
# 【意見2】

敬称略

発言者	回答者	意見内容
松崎		市民共同体というくみは経営に対して反映できないでしょうか。
古川		北イタリアでは小さい企業が活性化できるような税制上の配慮とかがなされている。
松永		原理的なものを追究していくことが、企業の経営へどんな影響があると思うか？
→	松崎	ブランドを学び、自分たちの足元を固めることの重要性を考えると原理こそ重要だが、現実の今日明日の闘いではそれ以外のことに目を向けざると得なくなり、抑えられることが多い。また、公的利益と結びつくという発想が現場に乏しい。
今田		心理学上、人は本来信じたい動物であるといわれている。信頼するというプロセスに幸せを感じる。
古城		著者は正に金持ちで恵まれた人生を送っている。私はいいことを書きすぎではという印象をもった。
臼井		今や利他の時代である。コミュニケーションからしか信頼は生まれない。
常盤		利他の定義は重要で、何か戻ってくることを意識をしたら本当の利他ではない。
片平		自分を支えてくれるものへの感謝の姿勢こそ利他。頭で考えるものではない。社会に基本動作が失われてきている。
常盤		韓国でもそうだったが、最近若者は倫理的な姿勢が欠けている。
大槻		現在の学生は利他的でなく、就活など生き残ることで精一杯。自我主義です。
片平		『思考と行動における言語』でモノ屋と希望屋。ユダヤ教のビジネスのおさえ方は独特で、その教えを学ぶ必要があるそう。ユダヤ教の教義は？
→	今田	旧約聖書。ユダヤ教は苦しみと裁きの精神。一神のみ信じる。信頼ということ言えば、同胞以外信頼がない世界では、金銭で安全を買う。従って、金を求めるのでは。
片平		ユダヤ教のグローバルネットワークはすごい。ハリウッド、金融、ファッション、MBA。ゼロから始めて、体制を組んで大きなビジネスを立ち上げるというくみは学ぶべきことが多い。
常盤		韓国のIT。日本はデジタルを十分に利活用されていない。デジタルを理解することで、アナログの価値を再認識できる。

以下、参考資料(未配布)

# ケインズ主義と新古典派経済学



見えざる手の評価	ケインズ主義	新古典派
<b>①拘束力</b> 実際の経済において、どれだけの働きを拘束されているか	見えざる手の働きは強く拘束されていると認識。	見えざる手が働いたときに達成される状態が、経済の「真実」である。
<b>②制度的要因</b> 制度的要因が、それによってひき起こさせる経済的損失と比べて、それ自身でどれだけ正当化されうる経済外的な役割を果しているか	制度的要因を重視。経済外的要因を短期的に与件とする。  次善策(セカンド・ベスト)、総需要管理策の運用を主張。	我々が日々経験している現実の経済の損失＝「不完全」。  最善策として、見えざる手の自発的な発動を待つことを主張。

# アダム・スミスの「道徳感情論」(堂目卓生より文章抜粋)

スミスはその著「道徳感情論」によって、社会秩序を導く人間本性は何かということ、社会の繁栄を導く人間本性は何かということについて述べている。

## 1) 社会秩序を導く人間本性とは。

その答えは**同感**である。同感とは、他人の感情や行為の適切性を判断する心の作用を、同感(Sympathy)と呼んだ。同感とは、他人の喜びや悲しみ、怒りなどの諸感情を自分の心の中に写し取り、想像力を使って、それらと同様の感情を引き出そうとする、あるいは引き出せるか否かを検討する人間の情動的な能力のこと。

スミスによれば、我々が自分の感情や行為の適切性を測る基準として求めるのは、利害関心のない、公平な観察者(Impartial Spectator)の是認である。

**基本的に胸中の公平な観察者の判断に従うひとを賢人と呼び、常に世間の評価を気にする人を弱い人と呼んだ。**しかし、実際には、すべての人間は、賢人と弱い人の部分の両方を持っているとする。我々の中の賢明さは自己規制によって公平な観察者(神の代理人)が是認するように行動しようとし、反対に弱さは自己欺瞞によって自己の欲望や意向を正当化しようとする。

**社会を支える土台は正義であって、慈恵ではない。**慈悲的な社会は、そうでない社会よりも快適な社会である。しかし、社会を維持し、存続させるために不可欠なのは、慈恵ではなく正義であるとする。慈恵は望ましいものとして、勧められれば十分であるが、正義は守るべきものとして強制されねばならない。

社会秩序を導くために必要なことは、法と義務の感覚であるとする。人間は他人の感情や行為に関心を持ち、それに同感する能力をもつという仮説から出発する。同感を通じて、各人は胸中に公平な観察者を形成し、自分の感情や行為が胸中の公平な観察者から称賛されるもの、少なくとも非難されないものになるように努力する。しかし、弱さがある。そこで、人間は胸中の公平な観察者の判断に従うことを一般的諸規則として設定し、それを考慮する義務の感覚を養う。

社会秩序は人間によって意図されたものではなく、自然の特別で愛情に満ちた配慮であるとする。また、人間を社会秩序に導くのは、人間の中にある諸感情の作用であるとする。最後に、人間は賢明さとともに弱さをもつため、一般的諸規則から逸脱する可能性がある。我々が完全な人間になれないように、社会も完全な秩序を形成することはできないと考えた。

## 2) 社会の繁栄を導く人間本性とは。

社会秩序と同様、同感である。集団生活を営むようになると、われわれは生活にとって必要な水準以上の富、そして社会的地位を求めるようになる。われわれが富と地位への野心を持つのは、富や地位の便利さ、快適さのためだけでなく、それらを手にするによって得られる他人からの同感や称賛、あるいは尊敬や感嘆のためである。スミスはこのような野心の動機を虚栄(vanity)と呼ぶ。富と地位に値するよりも、世間からの称賛を優先させる。

**スミスは幸福を、平静(tranquility)と享楽(enjoyment)にあると定義する。**心の平静のためには、健康で、負債がなく、良心にやましいところがないことが必要であるとする。しかし、それ以上の、財産の追加は幸福を大きく増進するものではないというのがスミスの幸福論である。

賢人は、最低水準の富さえあれば、それ以上の富の増加は自分の幸福に何の影響ももたらさないと予想する。一方、弱い人は、最低水準の富を得た後も、富の増加は幸福を増大させると考える。富の増加は、生活の快適さが増すとともに、他人からの賞賛が得られると考えるからである。

世間の尊敬と感嘆を得るためには、2つの違った道、「徳への道」と「財産への道」があることを示す。世間は英知と徳のある人を尊敬し、愚かで悪徳に満ちた人を軽蔑する。しかしながら、世間は同時に、裕福な人、社会的地位の高い人を尊敬し、貧しい人、社会的地位の低い人を軽蔑し、少なくとも無視する。世間にとって、英知と徳は見えにくいものであり、富と地位は見えやすいものである。そのため、世間の尊敬は英知と徳のある人よりも、裕福な人、社会的地位の高い人に向けられがちである。

私たちは、徳への道を優先させ、フェアプレイのルールに従えば、社会の秩序は維持され、社会は反映する。反対に、財産への道を優先させ、<sup>22</sup>フェアプレイのルールを侵犯すれば、社会の秩序が乱れ、社会の反映も実現しない。

社会の秩序と繁栄を導くには、徳への道の追求と自己規制、財産への道の追求と自己規制の両方によって制御された賢明な努力が必要である。

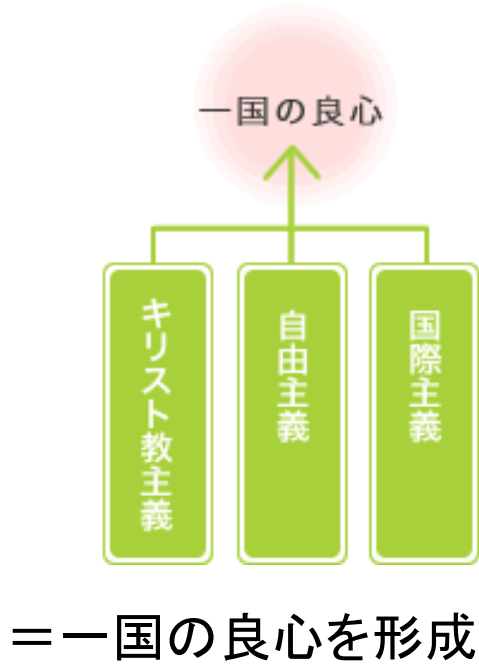
# 日本におけるキリスト教主義教育

学校名	建学の精神<標語・教育理念>	
明治学院	The Truth Shall Make You Free	真理はあなたたちを自由にする
フェリス女学院	For Others	他人のことを考えよ
青山学院	The Salts of The Earth, The Light of The World	地の塩 神と人に仕える 世の光 世界平和に責任
立教学院	Pro Deo et Partia	神のために(真理を探究) 世界のために(共生)
神戸女学院	Love Thy God, Love Thy Neighbor	愛神愛隣
同志社	Learn to Live and Live to Learn  (良心教育)	生きるために学び、学ぶために生きよ  精神(こころ)に刻み込む 良心ヲ手腕ニ運用スルノ人物
関西学院	Mastery for Service	奉仕のための練達

(良心)→神のために(真理)、人のために(奉仕)→世界のために(共生) 増殖<sup>23</sup>

# 同志社の良心教育

## 【良心教育】



## 【校章】



= 知徳体の三位一体

自発的結社  
(同志社)

少数エリートでなく、**中堅人民**  
**の諸活動の積分的集合**が  
近代国家を構成するという見識  
(新島襄の国家観)

**良心**を手腕に運用する  
人間の養成  
(目標)

良心とは…  
人の目だけでなく  
**神(キリスト)の目**で見ること

自立的主体  
と  
**パブリック意識**

**個人の内面の価値判断**  
>  
政府、集団、校則



# 一神教と多神教

一神教	ただひとつの神のみを信仰する宗教	キリスト教	神＝トリニティ (三位一体) 『父』『子』『聖霊』 キリスト	増殖現象を当初否定、 中世に容認
		ユダヤ教 イスラム教	神＝タウヒード アッラーが唯一絶対の神 ムハンマド、最高にして最後の預言者	増殖現象を否定 銀行は利子を取れない
多神教	複数の信仰対象を持つ宗教	神道 道教 ヒンドゥー教		

## 煉獄

•人間は死後、天国か地獄のどちらかに行くが、商人は地獄に落ちるという  
教え

•途中、いったん地獄に落ちた人が、この煉獄の山を苦勞して登って、高い山の頂にたどり着くと、上から天使がやってきて、天国に迎えあげてくれるという考え方に転換

•13世紀頃から西欧資本主義と結びつき、発展

•キリスト教が東西に分裂、三位一体(資本主義)の理解で東西対立へ  
東欧キリスト教圏(ロシア、ギリシャ)では社会主義へ、西欧は増殖原理に基づき解放しようとしたのに対し、ロシアのキリスト教は靈を大地と結びつけて縛りつけようとした(東西分裂)

•イスラムとの対立

•西欧に展開した資本主義の豊かさと、イスラム世界の精神的な豊かさや厳格な生き方に比べての、物質的生活の貧しさの対立

## 囚人のジレンマ

(「哲学する民主主義 第6章. 社会資本と制度、成功より抜粋」)

- ・ ある犯罪の共犯と嫌疑をかけられている2人の囚人が、別々の独房に入れられ、各人に対して警察は次のように言う。
- ・ もしお前が相手がやったと言ひ、相手がやったと言わないならば、無罪放免。もしお前が相手がやったと言わず、相手がお前がやったと言うならば、お前は厳しい取扱を受ける。もし、二人とも協力して話の辻褄があわすことができないならば、相手がどう出ようとも相手を裏切ることが賢明である。
- ・ 協力して行動するには、その前に、分が他者を信頼するのみならず、自分が他者によって信頼されていると信じなければならない。
- ・ 相互信頼がなければ、各人は協力的行為が非合理だと認識し、結局は誰もが望まない形の結果を継承する。



- ・ 囚人のジレンマにおいては、裏切りこそが、全ての当事者にとって安定的な  
※均衡戦略である。
- ※プレイヤーが誰ひとり自分の行動を変える誘因が働かない状態
- ・ 囚人のジレンマが存在する世界では、合理的な囚人は協力的な共同体によって、集合的ジレンマの限界を超えることができる。

## アニマルスピリットとは？

- アニマル・スピリットとは、非経済的な動機や不条理な行動。
- 資本主義はすさまじい創造性を発揮できる。政府はなるだけ邪魔すべきではない。一方で、なすがままにしておくと、資本主義経済は過剰に走りすぎる。そして狂乱状態となる。資本主義の根底には、不安定さ＝経済以外の動機がある。
- 育児書に書かれた親の役割は、適切な育児とはあまり厳しくするなという一方で、あまり甘やかすなとも述べる。幸せな家庭を築くことであり、子どもに自由を与えつつ、子ども自身のアニマルスピリットから子どもを守ることだ。
- 政府の適切な役割は、育児書に書かれた親の役割と同じく、舞台を整えることであり、アニマルスピリットで生じる行き過ぎには対抗すべきである。

ケインズ主義から見たアダム・スミスの『見えざる手』を否定する言葉。 28  
資本主義でも考え方が全く違うようで、民主党と共和党の政策の違いはこれ。

## 「愛すること」(エイリッヒ・フロム 同 第2章、第4章)

- 西洋の民主主義的な社会においては、人々は同調するように強いられるその度合いよりも、より以上に自ら同調したいと望んでいる。個性の発達としての平等は、西洋の啓蒙主義の平等の概念の意味であった。すべての人間は自分が目標であり、唯一の目標であるゆえに平等であり、互いに決して手段となるものではない。
- 現代の資本主義社会においては、平等は一体性よりも同一を意味する。社会の過程が人間の標準化を要求している。そしてこの標準化こそが平等である。

(第2章. 愛の理論)

- 資本主義社会においては、すべての決定要因は市場における交換である。
- 公明正大の倫理はそれ自身を「人にしてもらいたいと思うことは、人にもそのようにせよ」という黄金の規約と混同されやすいようにしている。現実に「君自身のごとくに、君の隣人を愛せよ」として定式化された。しかし、あなたの隣人を愛するということは、とりもなおさず責任を感じ、そして彼と一体であることを感じるということの意味している。その一方、公明の倫理は責任と一体性を感じないでその人とは距離と分離を感得することを意味する。
- 資本主義社会の根底にある原理と愛の原理とが両立することはできない。しかし、資本主義はそれ自体が複雑であり、かなりの不適合なものや、変化している構造である。
- 社会は管理者たちの官僚的組織によって、より多く生産し、より多く消費するように動機付けられている。すべての活動は経済的な目標に従属させられ、手段は目的となってしまった。本来、経済的な機械に人間が仕えるよりは、人間に機械が仕えるべきなのである。人間はただか利益に預かるようなことよりも、経験をともし、仕事を分かちことができるようにならなければならない。社会は、人間の社会的で人を愛する性質が、人間の社会的な実存から分離されないで、一体になるような風に組織されなければならない。もしも愛が、人間の実存という問題へのただひとつの正常な、そして満足な答えであるということが本当であるとすれば、愛の発達を排除するような社会は、いかなる社会でも、人間性の基本的な必要性和社会自体との矛盾によって、苦しまねばならないだろう。

(第4章. 愛の実践)

# ソーシャルキャピタル

(上条典夫「ソーシャル消費の時代」～Part5.コミュニティ観測～より抜粋)

- 今後は財政悪化もあって、従来行政が担ってきた社会的機能は縮小し、様々な主体によるソーシャルな活動が拡大していく。
- また全ての活動を市場に任せることも不可能なので、コミュニティそのものをエンパワーし、コミュニティのソーシャルな機能を多様化する必要がある。ソーシャルキャピタル(信頼感や互助組織)の充実は、そのための方策でもある。
- 事例＝健康格差社会→地域の連帯で心理的ストレスを解決。  
スポーツの位置づけ向上→「見る・聞く・支える」の大融合。

ソーシャルキャピタルを初めて知ったのはこの本。身近なビジネスにも影響あり。